



## HSRP および VRRP の設定

- [HSRP の設定, 1 ページ](#)

### HSRP の設定

この章では、ホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) を使用する方法について説明します。これによって、IP トラフィック ルーティングに冗長性を提供し、個々のルータの可用性に依存しないルーティングを実現します。

レイヤ 2 モードの HSRP のバージョンを使用すると、クラスタ コマンド スイッチが故障した場合、クラスタ管理を引き継ぐ冗長コマンド スイッチを設定することもできます。



(注) HSRP および VRRP 機能は Cisco Catalyst 3560-CX スイッチでのみサポートされます。

### 機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の機能情報および警告については、使用するプラットフォームおよびソフトウェア リリースの Bug Search Tool およびリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> からアクセスします。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

## HSRP の設定に関する情報

### HSRP の概要

HSRP は、デフォルト ゲートウェイ IP アドレスが設定された IEEE 802 LAN 上の IP ホストにファースト ホップ 冗長性を確保することでネットワークの可用性を高めるシスコの標準方式です。HSRP を使用すると、特定のルータの可用性に依存せず IP トラフィックをルーティングできます。また、一連のルータ インターフェイスを組み合わせることで、1 台の仮想ルータ、または LAN 上のホストへのデフォルト ゲートウェイのように機能させることができます。ネットワークまたはセグメント上に HSRP を設定すると、仮想 MAC (メディア アクセス コントロール) アドレス、および設定されたルータ グループ間で共有される IP アドレスを使用できるようになり HSRP が設定された複数のルータは、仮想ルータの MAC アドレスおよび IP ネットワーク アドレスを使用できるようになります。仮想ルータは、実際には存在しません。仮想ルータは、相互にバックアップ機能を提供するように設定されている複数のルータの共通のターゲットを表します。1 台のルータがアクティブなルータとして、もう 1 台のルータがスタンバイ ルータとして選択されます。スタンバイルータは、指定されたアクティブルータが故障した場合に、グループの MAC アドレスおよび IP アドレスを制御するルータです。



(注) HSRP グループ内のルータには、ルーテッド ポート、スイッチ仮想インターフェイス (SVI) など、HSRP をサポートする任意のルータ インターフェイスを指定できます。

HSRP は、ネットワーク上のホストからの IP トラフィックに冗長性を提供することで、ネットワークの可用性を高めます。アクティブ ルータは、ルータ インターフェイスのグループ内でパケットのルーティングを実行するために選択されたルータです。スタンバイ ルータは、アクティブルータが故障した場合、または事前に設定した条件が満たされた場合に、ルーティング作業を引き継ぐルータです。

HSRP は、ホストがルータ ディスカバリ プロトコルをサポートしておらず、選択されたルータのリロードや電源故障時に新しいルータに切り替えることができない場合に有効です。HSRP をネットワーク セグメントに設定すると、HSRP は仮想 MAC アドレスと IP アドレスを 1 つずつ提供します。このアドレスは、HSRP が動作するルータ インターフェイス グループ内のルータ インターフェイス間で共有できます。プロトコルによってアクティブルータとして選択されたルータは、グループの MAC アドレス宛てのパケットを受信し、ルーティングします。n 台のルータで HSRP が稼働している場合、n+1 個の IP アドレスおよび MAC アドレスが割り当てられます。

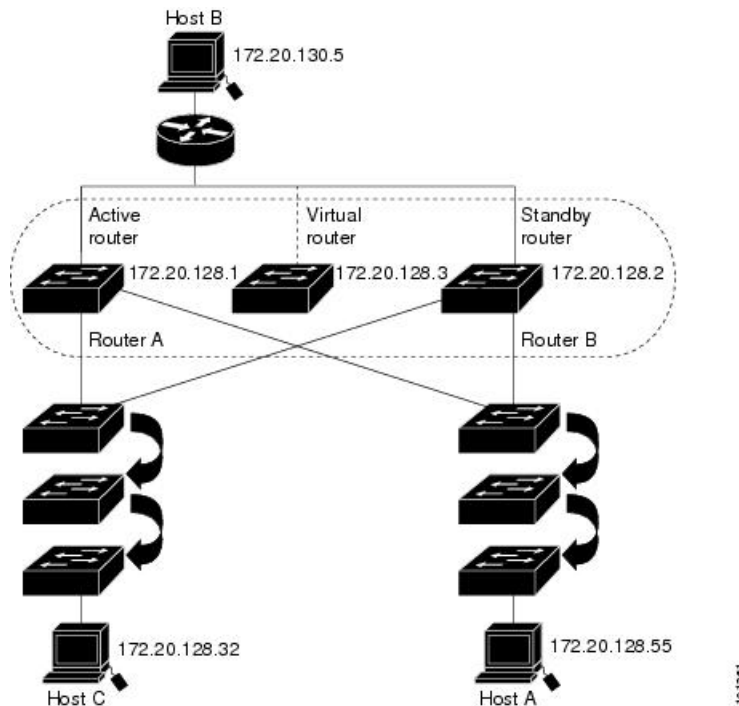
指定されたアクティブルータの故障を HSRP が検出すると、選択されているスタンバイ ルータがホットスタンバイ グループの MAC アドレスおよび IP アドレスの制御を引き継ぎます。この時点で新しいスタンバイ ルータも選択されます。HSRP が稼働しているデバイスは、マルチキャスト UDP ベースの hello パケットを送受信することにより、ルータ障害の検出、アクティブ ルータおよびスタンバイルータの指定を行います。インターフェイスに HSRP が設定されている場合、そのインターフェイスではインターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のリダイレクトメッセージが自動的にイネーブルになっています。

レイヤ 3 で動作するスイッチおよびスイッチ スタック間で複数のホット スタンバイ グループを設定すると、冗長ルータをさらに活用できます。そのためには、インターフェイスに設定する

ホットスタンバイ コマンド グループごとにグループ番号を指定します。たとえば、スイッチ 1 のインターフェイスをアクティブ ルータ、スイッチ 2 のインターフェイスをスタンバイ ルータとして設定できます。また、スイッチ 2 の別のインターフェイスをアクティブ ルータ、スイッチ 1 の別のインターフェイスをスタンバイ ルータとして設定することもできます。

次の図に、HSRP 用に設定されたネットワークのセグメントを示します。各ルータには、仮想ルータの MAC アドレスおよび IP ネットワーク アドレスが設定されています。ルータ A の IP アドレスをネットワーク上のホストに設定する代わりに、デフォルトルータとして仮想ルータの IP アドレスを設定します。ホスト C からホスト B にパケットが送信される場合、ホスト C は仮想ルータの MAC アドレスにパケットを送信します。何らかの理由により、ルータ A がパケットの転送を停止すると、ルータ B が仮想 IP アドレスおよび仮想 MAC アドレスに応答してアクティブ ルータとなり、アクティブ ルータの作業を行います。ホスト C は引き続き仮想ルータの IP アドレスを使用し、ホスト B 宛のパケットをアドレッシングします。ルータ B はそのパケットを受信し、ホスト B に送信します。ルータ B は HSRP の機能を使用し、ルータ A が動作を再開するまで、ホスト B のセグメント上のユーザと通信する必要があるホスト C のセグメント上のユーザに連続的にサービスを提供します。また、ホスト A セグメントとホスト B の間で、引き続き通常のパケット処理機能を実行します。

図 1: HSRP の一般的な構成



レイヤ 3 で動作するスイッチおよびスイッチ スタック間で複数のホットスタンバイ グループを設定すると、冗長ルータをさらに活用できます。そのためには、インターフェイスに設定するホットスタンバイ コマンド グループごとにグループ番号を指定します。たとえば、スイッチ 1 のインターフェイスをアクティブ ルータ、スイッチ 2 のインターフェイスをスタンバイ ルータとして設定できます。また、スイッチ 2 の別のインターフェイスをアクティブ ルータ、スイッチ 1 の別のインターフェイスをスタンバイ ルータとして設定することもできます。

## HSRP のバージョン

Cisco IOS XE Release 3.3SE 以降の製品は、下記のホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) バージョンをサポートしています。

スイッチでは、次の HSRP バージョンがサポートされます。

- HSRPv1 : HSRP のバージョン 1 (デフォルトのバージョン) 。 次の機能があります。
  - HSRP グループ番号は 0 ～ 255 まで使用できます。
  - HSRPv1 は 224.0.0.2 のマルチキャスト アドレスを使用して hello パケットを送信しますが、これは Cisco Group Management Protocol (CGMP) の脱退処理と競合します。 HSRPv1 と CGMP は相互に排他的なため、同時には使用できません。
- HSRPv2 : HSRP のバージョン 2。このバージョンには次の機能があります。
  - HSRPv2 は 224.0.0.102 のマルチキャスト アドレスを使用して hello パケットを送信します。 HSRPv2 と CGMP 脱退処理は相互に排他的ではありません。同時に使用できます。
  - HSRPv2 のパケット形式は、HSRPv1 とは異なります。

HSRPv1 を実行しているスイッチは、ルータの送信元 MAC アドレスが仮想 MAC アドレスのため、hello パケットを送信した物理的なルータを特定できません。

HSRPv2 のパケット形式は、HSRPv1 とは異なります。 HSRPv2 パケットは、パケットを送信した物理ルータの MAC アドレスを格納できる 6 バイトの識別子フィールドを持った、Type Length Value (TLV) 形式を使用します。

HSRPv1 を実行しているインターフェイスが HSRPv2 パケットを取得した場合、このタイプフィールドは無視されます。

## MHSRP

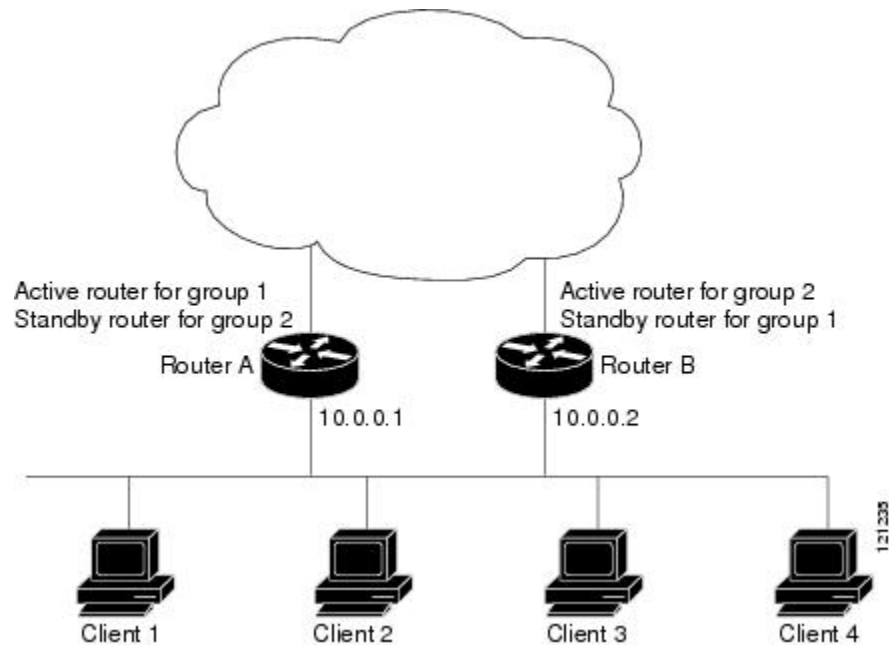
スイッチは、Multiple HSRP (MHSRP) をサポートします。 MHSRP は HSRP の拡張版で、複数の HSRP グループ間でのロードシェアリングが可能です。 ホスト ネットワークからサーバ ネットワークまで、ロードバランシングを実現して複数のスタンバイグループ (およびパス) を使用するために、MHSRP を設定できます。

下の図では、半分のクライアントがルータ A に設定されており、もう半分はルータ B に設定されています。 ルータ A およびルータ B の設定により、合計 2 つの HSRP グループが確立されています。 グループ 1 では、ルータ A に最高のプライオリティが割り当てられているので、ルータ A がデフォルトのアクティブ ルータになり、ルータ B がスタンバイ ルータとなります。 グループ 2 では、ルータ B に最も高いプライオリティが割り当てられているため、ルータ B がデフォルトのアクティブ ルータであり、ルータ A がスタンバイ ルータです。 通常の運用では、2 つのルータが IP トラフィック負荷を分散します。 いずれかのルータが使用できなくなると、もう一方のルータがアクティブになり、使用できないルータのパケット転送機能を引き継ぎます。



- (注) MHSRP では、ルータに障害が発生して正常に戻った場合にプリエンプションによりロードシェアリングを復元するために、**standby preempt** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを HSRP インターフェイスで入力する必要があります。

図 2: **MSHRP** ロード シェアリング



#### 関連トピック

[MHSRP の設定, \(12 ページ\)](#)

## SSO HSRP

SSO HSRP は、冗長なルートプロセッサ (RP) を装備したデバイスがステートフルスイッチオーバー (SSO) 冗長モード用に設定されているときの HSRP の動作を変更します。ある RP がアクティブで、もう一方の RP がスタンバイになっているとき、アクティブ RP に障害が発生すると、SSO は処理を引き継ぐスタンバイ RP をイネーブルにします。

この機能を使用すると、HSRP の SSO 情報がスタンバイ RP に同期されるため、HSRP 仮想 IP アドレスを使用して送信されるトラフィックをスイッチオーバー中も引き続き転送できるほか、データの損失やパスの変更も発生しません。さらに、HSRP アクティブ デバイスの両方の RP に障害が発生しても、スタンバイ状態の HSRP デバイスが HSRP アクティブ デバイスとして処理を引き継ぎます。

この機能は、動作の冗長モードが SSO に設定されている場合にデフォルトでイネーブルになっています。

## HSRP の設定方法

### HSRP のデフォルト設定

表 1: HSRP のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
HSRP バージョン	Version 1
HSRP グループ	未設定
スタンバイ グループ番号	0
スタンバイ MAC アドレス	0000.0c07.acXX に指定されたシステム。XX は、HSRP グループ番号
スタンバイプライオリティ	100
スタンバイ遅延	0（遅延なし）
スタンバイでのインターフェイスプライオリティの追跡	10
スタンバイ hello 時間	3 秒
スタンバイ ホールドタイム	10 秒

### HSRP HSRP 設定時の注意事項

- HSRPv2 および HSRPv1 は相互に排他的です。HSRPv2 は、同じインターフェイス上で HSRPv1 と一緒に動作しません（その逆も同様）。
- 以下の手順では、次に示すレイヤ 3 インターフェイスの 1 つを指定する必要があります。
  - ルーテッドポート：インターフェイス コンフィギュレーションモードで **no switchport** コマンドを入力して、レイヤ 3 ポートとして設定された物理ポートです。
  - SVI：グローバル コンフィギュレーションモードで **interface vlanvlan\_id** によって作成された VLAN インターフェイス。デフォルトではレイヤ 3 インターフェイスです。
  - レイヤ 3 モードの Etherchannel ポート チャネル：グローバル コンフィギュレーションモードで **interface port-channelport-channel-number** を使用し、イーサネット インターフェイスをチャネル グループにバインドして作成されたポートチャネル論理インターフェイスです。
- すべてのレイヤ 3 インターフェイスに IP アドレスを割り当てる必要があります。

- ・
- ・ インターフェイスの HSRP バージョンを変更する場合、HSRP グループは新しい MAC アドレスを持つことになるため、リセットされます。

## HSRP のイネーブル化

インターフェイス コンフィギュレーション コマンド **standby ip** は、設定されているインターフェイスで HSRP をアクティブ化します。IP アドレスを指定した場合は、IP アドレスがホットスタンバイグループの指定アドレスとして使用されます。IP アドレスを指定しなかった場合は、スタンバイ機能によってアドレスが学習されます。指定アドレスを使用し、LAN 上に少なくとも 1 つのレイヤ 3 ポートを設定する必要があります。IP アドレスを設定すると、常に、現在使用されている別の指定アドレスが、設定した IP アドレスに変更されます。

**standby ip** コマンドがインターフェイス上でイネーブルに設定され、プロキシ ARP がイネーブルの場合、インターフェイスのホットスタンバイ ステートがアクティブになると、プロキシ ARP 要求に対する応答は、ホットスタンバイ グループの MAC アドレスを使用して実行されます。インターフェイスが別のステートの場合、プロキシ ARP の応答は抑制されます。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface interface-id**
3. **standby version {1 | 2}**
4. **standby [group-number] ip [ip-address [secondary]]**
5. **end**
6. **show standby [interface-id [group]]**
7. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : <pre>Switch(config)# configure terminal</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface interface-id</b>  例 : <pre>Switch(config)# interface gigabitethernet1/0/1</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、HSRP をイネーブルにするレイヤ 3 インターフェイスを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>standby version {1 2}</b>  例 : <pre>Switch(config-if)# standby version 1</pre>	(任意) インターフェイスに HSRP バージョンを設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1 : HSRPv1 を選択します。</li> <li>• 2 : HSRPv2 を選択します。</li> </ul> このコマンドを入力しない場合、またはキーワードを指定しない場合、インターフェイスはデフォルトの HSRP バージョンである HSRPv1 を実行します。
ステップ 4	<b>standby[group-number] ip[ip-address [secondary]]</b>  例 : <pre>Switch(config-if)# standby 1 ip</pre>	HSRP グループの番号および仮想 IP アドレスを使用して、HSRP グループを作成 (またはイネーブルに) します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) group-number : HSRP をイネーブルにするインターフェイスのグループ番号を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 255 です。デフォルトは 0 です。HSRP グループが 1 つしかない場合は、グループ番号を入力する必要はありません。</li> <li>• (1 つのインターフェイスで必須、それ以外は任意) ip-address : ホットスタンバイ ルータ インターフェイスの仮想 IP アドレスを指定します。少なくとも 1 つのインターフェイスに対して仮想 IP アドレスを入力する必要があります。他のインターフェイスは、その仮想 IP アドレスを学習します。</li> <li>• (任意) secondary : IP アドレスがセカンダリ ホットスタンバイ ルータ インターフェイスであることを指定します。ルータがセカンダリ ルータとスタンバイ ルータのいずれにも指定されず、かつプライオリティも設定されていない場合は、プライマリ IP アドレスが比較され、IP アドレスが大きいルータがアクティブ ルータ、IP アドレスが 2 番めに大きいルータがスタンバイ ルータになります。</li> </ul>
ステップ 5	<b>end</b>  例 : <pre>Switch(config-if)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります
ステップ 6	<b>show standby[interface-id[group]]</b>  例 : <pre>Switch # show standby</pre>	スタンバイ グループの設定を確認します。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	<b>copyrunning-configstartup-config</b>  例 :  <pre>Switch# copy running-config startup-config</pre>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

### 関連トピック

[HSRP のイネーブル化 : 例, \(24 ページ\)](#)

## HSRP のプライオリティの設定

**standby priority**, **standby preempt**, および **standby track** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドはいずれも、アクティブ ルータとスタンバイ ルータを検索するための特性、および新しいアクティブ ルータが処理を引き継いだ場合の動作を設定するために使用できます。

HSRP プライオリティを設定する場合の注意事項は、次のとおりです。

- プライオリティを割り当てておくと、アクティブ ルータおよびスタンバイ ルータを選択できます。プリエンプションがイネーブルの場合は、プライオリティが最高のルータがアクティブ ルータになります。プライオリティが等しい場合は、現在アクティブなルータに変更はありません。
- 最大の値 (1 ~ 255) が、最高のプライオリティ (アクティブルータになる確率が最も高い) を表します。
- プライオリティ、プリエンプト、またはその両方を設定するときは、少なくとも 1 つのキーワード (**priority**、**preempt**、または両方) を指定する必要があります。
- インターフェイスが **standby track** コマンドによって設定されている場合、ルータ上の別のインターフェイスがダウンすると、デバイスのプライオリティが動的に変更されることもあります。
- **standby track** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを実行すると、ルータのホットスタンバイプライオリティとインターフェイスのアベイラビリティが関連付けられます。この機能は、HSRP 用に設定されていないインターフェイスを追跡する場合に有効です。追跡対象のインターフェイスが故障すると、トラッキングが設定されているデバイスのホットスタンバイ プライオリティが 10 減少します。追跡対象でないインターフェイスの場合は、そのステータスが変わっても、設定済みデバイスのホットスタンバイ プライオリティは変わりません。ホットスタンバイ用に設定されたインターフェイスごとに、追跡するインターフェイスのリストを個別に設定できます。
- **standby trackinterface-priority** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを実行すると、追跡対象のインターフェイスがダウンした場合のホットスタンバイ プライオリティの

減少幅を指定できます。インターフェイスが稼働状態に戻ると、プライオリティは同じ分だけ増加します。

- **interface-priority** 値が設定されている場合に、複数の追跡対象インターフェイスがダウンすると、設定済みプライオリティの減少幅が累積されます。プライオリティ値が設定されていない追跡対象インターフェイスが故障した場合、デフォルトの減少幅は 10 です。この値は累積されません。
- インターフェイスに対してルーティングを最初にイネーブルにした時点で、完全なルーティング テーブルは存在しません。このインターフェイスがプリエンプトに設定されている場合はアクティブ ルータになりますが、十分なルーティング処理はできません。この問題を解決するには、ルータがルーティングテーブルを更新できるように遅延時間を設定します。

インターフェイスに HSRP プライオリティ特性を設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

## 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface***interface-id*
3. **standby** [*group-number*] **priority***priority*
4. **standby** [*group-number*] **preempt** [**delay** [*minimumseconds*] [**reloadseconds**] [**syncseconds**]]
5. **standby** [*group-number*] **track** *type number* [*interface-priority*]
6. **end**
7. **show running-config**
8. **copy running-config startup-config**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Switch # <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface</b> <i>interface-id</i>  例 : Switch(config) # <b>interface</b> <b>gigabitethernet1/0/1</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、プライオリティを設定する HSRP インターフェイスを入力します。
ステップ 3	<b>standby</b> [ <i>group-number</i> ] <b>priority</b> <i>priority</i>  例 : Switch(config-if) # <b>standby</b> <b>120</b> <b>priority</b> <b>50</b>	アクティブ ルータを選択するときに使用される <b>priority</b> 値を設定します。指定できる範囲は 1 ～ 255 です。デフォルトプライオリティは 100 です。最大の値が、最高のプライオリティを表します。  • (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。

	コマンドまたはアクション	目的
		デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。
ステップ 4	<b>standby[group-number] preempt[delay[minimumseconds][reloadseconds][syncseconds]]</b>  例 : Switch(config-if) # <b>standby 1 preempt delay 300</b>	<p>ルータを <b>preempt</b> に設定し、ローカル ルータのプライオリティがアクティブ ルータよりも高い場合は、アクティブ ルータとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>• (任意) <b>delay minimum</b> : ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> <li>• (任意) <b>delay reload</b> : ローカルルータがリロードの後アクティブルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (リロードの後、引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> <li>• (任意) <b>delay sync</b> : IP 冗長性クライアントが応答できるように (ok または wait 応答)、ローカルルータがアクティブルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 5	<b>standby [group-number] track type number[interface-priority]</b>  例 : Switch(config-if) # <b>standby track interface gigabitethernet1/1/1</b>	<p>他のインターフェイスを追跡するようにインターフェイスを設定します。この設定により、他のインターフェイスの 1 つがダウンした場合は、そのデバイスのホットスタンバイ プライオリティが減少します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>• <b>type</b> : 追跡対象のインターフェイスタイプを (インターフェイス番号とともに) 入力します。</li> <li>• <b>number</b> : 追跡対象のインターフェイス番号を (インターフェイスタイプとともに) 入力します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>（任意） <b>interface-priority</b> : インターフェイスがダウンした場合、または稼働状態に戻った場合に、ルータのホットスタンバイプライオリティを減少または増加させる幅を入力します。デフォルト値は 10 です。</li> </ul>
ステップ 6	<b>end</b>  例 :  Switch(config-if) # <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	<b>show running-config</b>	スタンバイ グループの設定を確認します。
ステップ 8	<b>copy running-config startup-config</b>	（任意）コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

#### 関連トピック

[HSRP のプライオリティの設定 : 例, \(24 ページ\)](#)

## MHSRP の設定

MHSRP およびロードバランシングをイネーブルにするには、MHSRP の項の *MHSRP* ロードシェアリングの図に示したように、グループのアクティブ ルータとして 2 つのルータを設定し、スタンバイルータとして仮想ルータを設定します。ルータに障害が発生して正常に戻った場合、プリエンプションを発生させてロードバランシングを復元するために、**standby preempt** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドをそれぞれの HSRP インターフェイスで入力する必要があります。

ルータ A はグループ 1 のアクティブ ルータとして、ルータ B はグループ 2 のアクティブ ルータとして設定されています。ルータ A の HSRP インターフェイスの IP アドレスは 10.0.0.1、グループ 1 のスタンバイ プライオリティは 110（デフォルトは 100）です。ルータ B の HSRP インターフェイスの IP アドレスは 10.0.0.2、グループ 2 のスタンバイ プライオリティは 110 です。

グループ 1 は仮想 IP アドレス 10.0.0.3 を使用し、グループ 2 は仮想 IP アドレス 10.0.0.4 を使用します。

#### 関連トピック

[MHSRP, \(4 ページ\)](#)

## ルータ A の設定

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface***type number*
3. **no switchport**
4. **ip address***ip-address mask*
5. **standby***[group-number]***ip***[ip-address[secondary]]*
6. **standby** *[group-number]* **priority***priority*
7. **standby***[group-number]* **preempt***[delay[minimumseconds] [reloadseconds] [syncseconds]]*
8. **standby***[group-number]***ip***[ip-address[secondary]]*
9. **standby***[group-number]***preempt***[delay[minimumseconds] [reloadseconds] [syncseconds]]*
10. **end**
11. **show running-config**
12. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： Switch # <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface</b> <i>type number</i>  例： Switch (config) # <b>interface gigabitethernet1/0/1</b>	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no switchport</b>  例： Switch (config) # <b>no switchport</b>	レイヤ 2 モードになっているインターフェイスを、レイヤ 3 設定用にレイヤ 3 モードに切り替えます。
ステップ 4	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i>  例： Switch (config-if) # <b>10.0.0.1 255.255.255.0</b>	インターフェイスの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<b>standby</b> <i>[group-number]</i> <b>ip</b> <i>[ip-address[secondary]]</i>  例： Switch (config-if) # <b>standby 1 ip 10.0.0.3</b>	HSRP グループの番号および仮想 IP アドレスを使用して、HSRP グループを作成します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <i>group-number</i> : HSRP をイネーブルにするインターフェイスのグループ番号を指定します。指定できる範囲は 0 ～ 255 です。デフォルト</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>トは 0 です。HSRP グループが 1 つしかない場合は、グループ番号を入力する必要はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (1 つのインターフェイスで必須、それ以外は任意) <b>ip-address</b> : ホットスタンバイ ルータ インターフェイスの仮想 IP アドレスを指定します。少なくとも 1 つのインターフェイスに対して仮想 IP アドレスを入力する必要があります。他のインターフェイスは、その仮想 IP アドレスを学習します。</li> <li>• (任意) <b>secondary</b> : IP アドレスがセカンダリ ホットスタンバイ ルータ インターフェイスであることを指定します。ルータがセカンダリ ルータとスタンバイ ルータのいずれにも指定されず、かつプライオリティも設定されていない場合は、プライマリ IP アドレスが比較され、IP アドレスが大きいルータがアクティブ ルータ、IP アドレスが 2 番めに大きいルータがスタンバイ ルータになります。</li> </ul>
ステップ 6	<b>standby [group-number] prioritypriority</b>  例 : Switch(config-if)# <b>standby 1 priority 110</b>	<p>アクティブ ルータを選択するときに使用される <b>priority</b> 値を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。デフォルト プライオリティは 100 です。最大の値が、最高のプライオリティを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 7	<b>standby[group-number] preempt[delay[minimumseconds] [reloadseconds] [syncseconds]]</b>  例 : Switch(config-if)# <b>standby 1 preempt delay 300</b>	<p>ルータを <b>preempt</b> に設定し、ローカル ルータのプライオリティがアクティブ ルータよりも高い場合は、アクティブ ルータとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>• (任意) <b>delay minimum</b> : ローカルルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ~ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>delay reload</b> : ローカル ルータがリロードの後アクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (リロードの後、引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> <li>• (任意) <b>delay sync</b> : IP 冗長性クライアントが応答できるように (ok または wait 応答)、ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 8	<b>standby[group-number]ip[ip-address[secondary]]</b>  例 : Switch (config-if) # <b>standby 2 ip 10.0.0.4</b>	<p>HSRP グループの番号および仮想 IP アドレスを使用して、HSRP グループを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : HSRP をイネーブルにするインターフェイスのグループ番号を指定します。指定できる範囲は 0 ～ 255 です。デフォルトは 0 です。HSRP グループが 1 つしかない場合は、グループ番号を入力する必要はありません。</li> <li>• (1 つのインターフェイスで必須、それ以外は任意) <b>ip-address</b> : ホットスタンバイ ルータ インターフェイスの仮想 IP アドレスを指定します。少なくとも 1 つのインターフェイスに対して仮想 IP アドレスを入力する必要があります。他のインターフェイスは、その仮想 IP アドレスを学習します。</li> <li>• (任意) <b>secondary</b> : IP アドレスがセカンダリ ホットスタンバイ ルータ インターフェイスであることを指定します。ルータがセカンダリ ルータとスタンバイルータのいずれにも指定されず、かつプライオリティも設定されていない場合は、プライマリ IP アドレスが比較され、IP アドレスが大きいルータがアクティブ ルータ、IP アドレスが 2 番めに大きいルータがスタンバイ ルータになります。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<b>standby[group-number]preempt[delay[minimumseconds][reloadseconds][syncseconds]]</b>  例 : Switch(config-if)# <b>standby 2 preempt delay 300</b>	<p>ルータを <b>preempt</b> に設定し、ローカル ルータのプライオリティがアクティブ ルータよりも高い場合は、アクティブ ルータとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（任意）<b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>（任意）<b>delay minimum</b> : ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒（1 時間）で、デフォルトは 0 です（引き継ぐ前の遅延はありません）。</li> <li>（任意）<b>delay reload</b> : ローカル ルータがリロードの後アクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600（1 時間）で、デフォルトは 0 です（リロードの後、引き継ぐ前の遅延はありません）。</li> <li>（任意）<b>delay sync</b> : IP 冗長性クライアントが応答できるように（ok または wait 応答）、ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒（1 時間）で、デフォルトは 0 です（引き継ぐ前の遅延はありません）。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 10	<b>end</b>  例 : Switch(config-if)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<b>show running-config</b>	スタンバイ グループの設定を確認します。
ステップ 12	<b>copy running-config startup-config</b>	（任意）コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## 関連トピック

[MHSRP の設定 : 例, \(25 ページ\)](#)



## ルータ B の設定

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interface***type number*
3. **no switchport**
4. **ip address***ip-address mask*
5. **standby**[*group-number*]**ip**[*ip-address*]**[secondary]**
6. **standby** [*group-number*] **priority***priority*
7. **standby**[*group-number*] **preempt**[**delay**[*minimumseconds*] [*reloadseconds*] [*syncseconds*]]
8. **standby**[*group-number*]**ip**[*ip-address*]**[secondary]**
9. **standby**[*group-number*]**preempt**[**delay**[*minimumseconds*] [*reloadseconds*] [*syncseconds*]]
10. **end**
11. **show running-config**
12. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例 : Switch # <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface</b> <i>type number</i>  例 : Switch (config) # <b>interface gigabitethernet1/0/1</b>	インターフェイスタイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>no switchport</b>  例 : Switch (config) # <b>no switchport</b>	レイヤ 2 モードになっているインターフェイスを、レイヤ 3 設定用にレイヤ 3 モードに切り替えます。
ステップ 4	<b>ip address</b> <i>ip-address mask</i>  例 : Switch (config-if) # <b>10.0.0.2 255.255.255.0</b>	インターフェイスの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<b>standby</b> [ <i>group-number</i> ] <b>ip</b> [ <i>ip-address</i> ] <b>[secondary]</b>  例 : Switch (config-if) # <b>standby 1 ip 10.0.0.3</b>	HSRP グループの番号および仮想 IP アドレスを使用して、HSRP グループを作成します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <i>group-number</i> : HSRP をイネーブルにするインターフェイスのグループ番号を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 255 です。デフォルト</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>トは 0 です。HSRP グループが 1 つしかない場合は、グループ番号を入力する必要はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (1 つのインターフェイスで必須、それ以外は任意) <b>ip-address</b> : ホットスタンバイ ルータ インターフェイスの仮想 IP アドレスを指定します。少なくとも 1 つのインターフェイスに対して仮想 IP アドレスを入力する必要があります。他のインターフェイスは、その仮想 IP アドレスを学習します。</li> <li>• (任意) <b>secondary</b> : IP アドレスがセカンダリ ホットスタンバイ ルータ インターフェイスであることを指定します。ルータがセカンダリ ルータとスタンバイ ルータのいずれにも指定されず、かつプライオリティも設定されていない場合は、プライマリ IP アドレスが比較され、IP アドレスが大きいルータがアクティブ ルータ、IP アドレスが 2 番めに大きいルータがスタンバイ ルータになります。</li> </ul>
ステップ 6	<b>standby [group-number] priority priority</b>  例 : Switch(config-if)# <b>standby 1 priority 110</b>	<p>アクティブ ルータを選択するときに使用される <b>priority</b> 値を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 255 です。デフォルト プライオリティは 100 です。最大の値が、最高のプライオリティを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 7	<b>standby[group-number] preempt[delay[minimumseconds] [reloadseconds] [syncseconds]]</b>  例 : Switch(config-if)# <b>standby 1 preempt delay 300</b>	<p>ルータを <b>preempt</b> に設定し、ローカル ルータのプライオリティがアクティブ ルータよりも高い場合は、アクティブ ルータとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>• (任意) <b>delay minimum</b> : ローカルルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ~ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>delay reload</b> : ローカル ルータがリロードの後アクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (リロードの後、引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> <li>• (任意) <b>delay sync</b> : IP 冗長性クライアントが応答できるように (ok または wait 応答)、ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 8	<b>standby[group-number]ip[ip-address[secondary]]</b>  例 : Switch (config-if) # <b>standby 2 ip 10.0.0.4</b>	<p>HSRP グループの番号および仮想 IP アドレスを使用して、HSRP グループを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (任意) <b>group-number</b> : HSRP をイネーブルにするインターフェイスのグループ番号を指定します。指定できる範囲は 0 ～ 255 です。デフォルトは 0 です。HSRP グループが 1 つしかない場合は、グループ番号を入力する必要はありません。</li> <li>• (1 つのインターフェイスで必須、それ以外は任意) <b>ip-address</b> : ホットスタンバイ ルータ インターフェイスの仮想 IP アドレスを指定します。少なくとも 1 つのインターフェイスに対して仮想 IP アドレスを入力する必要があります。他のインターフェイスは、その仮想 IP アドレスを学習します。</li> <li>• (任意) <b>secondary</b> : IP アドレスがセカンダリ ホットスタンバイ ルータ インターフェイスであることを指定します。ルータがセカンダリ ルータとスタンバイルータのいずれにも指定されず、かつプライオリティも設定されていない場合は、プライマリ IP アドレスが比較され、IP アドレスが大きいルータがアクティブ ルータ、IP アドレスが 2 番めに大きいルータがスタンバイ ルータになります。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 9	<b>standby[group-number]preempt[delay[minimumseconds][reloadseconds][syncseconds]]</b>  例 : Switch(config-if)# <b>standby 2 preempt delay 300</b>	<p>ルータを <b>preempt</b> に設定し、ローカル ルータのプライオリティがアクティブ ルータよりも高い場合は、アクティブ ルータとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（任意）<b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>（任意）<b>delay minimum</b> : ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒（1 時間）で、デフォルトは 0 です（引き継ぐ前の遅延はありません）。</li> <li>（任意）<b>delay reload</b> : ローカル ルータがリロードの後アクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600（1 時間）で、デフォルトは 0 です（リロードの後、引き継ぐ前の遅延はありません）。</li> <li>（任意）<b>delay sync</b> : IP 冗長性クライアントが応答できるように（ok または wait 応答）、ローカル ルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ～ 3600 秒（1 時間）で、デフォルトは 0 です（引き継ぐ前の遅延はありません）。</li> </ul> <p>デフォルト値に戻すには、このコマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p>
ステップ 10	<b>end</b>  例 : Switch(config-if)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 11	<b>show running-config</b>	スタンバイ グループの設定を確認します。
ステップ 12	<b>copy running-config startup-config</b>	（任意）コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

## 関連トピック

[MHSRP の設定 : 例, \(25 ページ\)](#)

## HSRP 認証およびタイマーの設定

HSRP 認証ストリングを設定したり、hello タイム インターバルやホールドタイムを変更することもできます。

これらの属性を設定する場合の注意事項は次のとおりです。

- 認証ストリングはすべての HSRP メッセージで暗号化されずに送信されます。相互運用できるように、接続されたすべてのルータおよびアクセスサーバに同じ認証ストリングを設定する必要があります。認証ストリングが一致しないと、HSRP によって設定された他のルータから、指定されたホットスタンバイ IP アドレスおよびタイマー値を学習できません。
- スタンバイ タイマー値が設定されていないルータまたはアクセスサーバは、アクティブルータまたはスタンバイ ルータからタイマー値を学習できます。アクティブ ルータに設定されたタイマーは、常に他のタイマー設定よりも優先されます。
- ホットスタンバイ グループのすべてのルータで、同じタイマー値を使用する必要があります。通常、*holdtime* は *hellotime* の 3 倍以上です。

インターフェイスに HSRP の認証とタイマーを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **configure terminal**
2. **interfaceinterface-id**
3. **standby[group-number] authenticationstring**
4. **standby[group-number]timershellotimeholdtime**
5. **end**
6. **show running-config**
7. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  例： Switch # <b>configure terminal</b>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<b>interfaceinterface-id</b>  例： Switch(config) # <b>interface gigabitethernet1/0/1</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、プライオリティを設定する HSRP インターフェイスを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<b>standby[group-number] authenticationstring</b>  例 : <pre>Switch(config-if) # standby 1 authentication word</pre>	(任意) <b>authenticationstring</b> : すべての HSRP メッセージで伝達されるストリングを入力します。認証ストリングには8文字までを指定できます。デフォルトのストリングは <b>cisco</b> です。 (任意) <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。
ステップ 4	<b>standby[group-number] timershellotimeholdtime</b>  例 : <pre>Switch(config-if) # standby 1 timers 5 15</pre>	(任意) <b>hello</b> パケット間隔、およびアクティブ ルータのダウンを他のルータが宣言するまでの時間を設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>group-number</b> : コマンドが適用されるグループ番号です。</li> <li>• (任意) <b>hellotime</b> : ローカルルータがアクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ~ 3600 秒 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> <li>• <b>holdtime</b> : ローカルルータがリロードの後アクティブ ルータの役割を引き継ぐまでの時間を、指定された秒数だけ延期します。指定できる範囲は 0 ~ 3600 (1 時間) で、デフォルトは 0 です (リロードの後、引き継ぐ前の遅延はありません)。</li> </ul>
ステップ 5	<b>end</b>  例 : <pre>Switch(config-if) # end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<b>show running-config</b>	スタンバイ グループの設定を確認します。
ステップ 7	<b>copy running-config startup-config</b>	(任意) コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

#### 関連トピック

[HSRP 認証およびタイマーの設定 : 例, \(25 ページ\)](#)

## ICMP リダイレクト メッセージの HSRP サポートのイネーブル化

HSRP が設定されたインターフェイスでは、ICMP リダイレクト メッセージが自動的にイネーブルになります。ICMP は、エラーをレポートするためのメッセージ パケットや IP 処理に関連する他

の情報を提供する、ネットワーク層インターネットプロトコルです。ICMP には、ホストへのエラーパケットの方向付けや送信などの診断機能があります。この機能は、HSRP を介した発信 ICMP リダイレクトメッセージをフィルタリングします。HSRP では、ネクストホップ IP アドレスが HSRP 仮想 IP アドレスに変更される可能性があります。詳細については、『Cisco IOS IP Configuration Guide, Release 12.4』を参照してください。

## HSRP グループおよびクラスタリングの設定

デバイスが HSRP スタンバイルーティングに参加し、クラスタリングがイネーブルの場合は、同じスタンバイグループを使用して、コマンドスイッチの冗長性および HSRP の冗長性を確保できます。同じ HSRP スタンバイグループをイネーブルにし、コマンドスイッチおよびルーティングの冗長性を確保するには、**cluster standby-group***HSRP-group-name* [**routing-redundancy**] グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。**routing-redundancy** キーワードを指定せずに同じ HSRP スタンバイグループ名でクラスタを作成すると、そのグループに対する HSRP スタンバイルーティングはディセーブルになります。

### 関連トピック

[HSRP グループおよびクラスタリングの設定：例](#)、(26 ページ)

## HSRP のトラブルシューティング

次の表で説明されている状況のいずれかが発生した場合、以下のメッセージが表示されます。

```
%FHRP group not consistent with already configured groups on the switch stack - virtual MAC reservation failed
```

表 2: **HSRP** のトラブルシューティング

状況	アクション
32 個を超える HSRP グループ インスタンスを設定する。	最大 32 個のグループ インスタンスに設定されるように HSRP グループを削除します。

## HSRP の確認

### HSRP コンフィギュレーションの確認

HSRP 設定を表示するには、次の特権 EXEC モードで次のコマンドを使用します。

```
show standby[interface-id][group]][brief][detail]
```

スイッチ全体、特定のインターフェイス、HSRP グループ、またはインターフェイスの HSRP グループに関する HSRP 情報を表示できます。HSRP 情報の概要または詳細のいずれを表示するかを指定することもできます。デフォルト表示は **detail** です。多数の HSRP グループがある場合

に、修飾子を指定しないで **show standby** コマンドを使用すると、正確に表示されないことがあります。

```
Switch #show standby
VLAN1 - Group 1
Local state is Standby, priority 105, may preempt
Hellotime 3 holdtime 10
Next hello sent in 00:00:02.182
Hot standby IP address is 172.20.128.3 configured
Active router is 172.20.128.1 expires in 00:00:09
Standby router is local
Standby virtual mac address is 0000.0c07.ac01
Name is bbb

VLAN1 - Group 100
Local state is Standby, priority 105, may preempt
Hellotime 3 holdtime 10
Next hello sent in 00:00:02.262
Hot standby IP address is 172.20.138.51 configured
Active router is 172.20.128.1 expires in 00:00:09
Active router is local
Standby router is unknown expired
Standby virtual mac address is 0000.0c07.ac64
Name is test
```

## HSRP の設定例

### HSRP のイネーブル化：例

次に、インターフェイスのグループ 1 で HSRP をアクティブにする例を示します。ホットスタンバイグループで使用される IP アドレスは、HSRP を使用して学習されます。



(注) これは、HSRP をイネーブルにするために必要な最小限の手順です。その他の設定は任意です。

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if) # no switchport
Switch(config-if) # standby 1 ip
Switch(config-if) # end
Switch # show standby
```

関連トピック

[HSRP のイネーブル化, \(7 ページ\)](#)

### HSRP のプライオリティの設定：例

次に、ポートをアクティブにして、IP アドレスおよびプライオリティ 120（デフォルト値よりも高いプライオリティ）を設定して、アクティブルータになるまで 300 秒（5 分間）待機する例を示します。

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if) # no switchport
Switch(config-if) # standby ip 172.20.128.3
Switch(config-if) # standby priority 120 preempt delay 300
```



```
Switch(config-if)# end
Switch # show standby
```

## 関連トピック

[HSRP のプライオリティの設定, \(9 ページ\)](#)

## MHSRP の設定 : 例

次に、MHSRP ロードシェアリングの図で示した MHSRP 設定をイネーブルにする例を示します。

### ルータ A の設定

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if) # no switchport
Switch(config-if) # ip address 10.0.0.1 255.255.255.0
Switch(config-if) # standby ip 10.0.0.3
Switch(config-if) # standby 1 priority 110
Switch(config-if) # standby 1 preempt
Switch(config-if) # standby 2 ip 10.0.0.4
Switch(config-if) # standby 2 preempt
Switch(config-if) # end
```

### ルータ B の設定

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if) # no switchport
Switch(config-if) # ip address 10.0.0.2 255.255.255.0
Switch(config-if) # standby ip 10.0.0.3
Switch(config-if) # standby 1 preempt
Switch(config-if) # standby 2 ip 10.0.0.4
Switch(config-if) # standby 1 priority 110
Switch(config-if) # standby 2 preempt
Switch(config-if) # end
```

## 関連トピック

[ルータ A の設定, \(13 ページ\)](#)

[ルータ B の設定, \(17 ページ\)](#)

## HSRP 認証およびタイマーの設定 : 例

次に、グループ 1 のホットスタンバイ ルータを相互運用させるために必要な認証ストリングとして、word を設定する例を示します。

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if) # no switchport
Switch(config-if) # standby 1 authentication word
Switch(config-if) # end
```

次に、hello パケット間隔が 5 秒、ルータがダウンしたと見なされるまでの時間が 15 秒となるように、スタンバイ グループ 1 のタイマーを設定する例を示します。

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # interface gigabitethernet1/0/1
Switch(config-if) # no switchport
Switch(config-if) # standby 1 ip
```

```
Switch(config-if)# standby 1 timers 5 15
Switch(config-if)# end
```

#### 関連トピック

[HSRP 認証およびタイマーの設定, \(21 ページ\)](#)

## HSRP グループおよびクラスタリングの設定 : 例

次に、スタンバイ グループ `my_hsrp` をクラスタにバインドし、同じ HSRP グループをイネーブルにしてコマンドスイッチおよびルータの冗長性に使用する例を示します。このコマンドを実行できるのは、コマンド スイッチに対してだけです。スタンバイ グループの名前または番号が存在しない場合、またはスイッチがクラスタ メンバー スイッチである場合は、エラー メッセージが表示されます。

```
Switch # configure terminal
Switch(config) # cluster standby-group my_hsrp routing-redundancy
Switch(config-if)# end
```

#### 関連トピック

[HSRP グループおよびクラスタリングの設定, \(23 ページ\)](#)

## VRRP の概要

### VRRP の設定

Virtual Router Redundancy Protocol (VRRP) は、ルータのグループを使用して単一の仮想ルータを形成し、冗長性を実現する選択プロトコルです。VRRP の設定では、1 つのルータが仮想ルータ マスターとして選択され、もう 1 つのルータが障害発生時のバックアップとして機能します。LAN クライアントは、デフォルトゲートウェイとして仮想ルータを使用して設定でき、マルチアクセス リンク上の複数のルータが同じ仮想 IP アドレスを使用できるようにします。ルータのグループを表す仮想ルータは、VRRP グループを形成します。

HSRP も VRRP も、同じ機能を実行します。スイッチまたはスイッチに、IETF 標準 VRRP を設定するか、シスコのより強力な HSRP を設定するかを選択できます。

### VRRP の制約事項

- スイッチの VRRP 実装は、RFC 2787 で指定された MIB をサポートしません。
- スイッチの VRRP 実装は、テキストベースの認証だけをサポートします。